

令和四年度鹿児島県支部 桜島俳句大会（募集句）成績

令和五年十月十六日

大会賞（俳人協会鹿児島県支部賞）

大根蒔く熔岩の際まで畝を立て 中間 恵子

南日本新聞社賞

噴く島に嫁して八十路や磯菜摘む 山口 雄二

鹿児島県俳人協会賞

風死すや深く刻みし噴火の碑 藤元 睦子

優秀賞

一位 火の山を蹴る逆上り鷹渡る 久永のり尾

二位 火の島の鼓動にはじけ椿の実 上野ミチ子

三位 爽やかやフェリーに夜勤明けの医師 前田 浩海

四位 甲板に供華抱く刀自や秋彼岸 山田 雄二

五位 秋冷や鋤一本の火山灰畑 上別府和代

六位 秋日濃し火山灰に火山灰積む桜島 吉村 久佐

七位 大夕立鳴動の島洗ひ去る 藤元 睦子

八位 箴音の絶えし蛸路地椿の実 中間 恵子

九位 熔岩垣や庭に広げし椿の実 窪 昌子

十位 渡り待つ鷹の目潜む熔岩岬 瀬戸 清子

大川畑 光詳選

特選 埋没の鳥居の森や椎拾ふ 福元さゆり

準特選 穴まどひ熔岩原の底村眠る 久永のり尾

準特選 大根蒔く熔岩の際まで畝を立て 中間 恵子

折田 幸弘選

特選 秋日濃し火山灰に火山灰積む桜島 吉村 久佐

準特選 腕に来て句帳をのぞく赤とんぼ 坪田 秀邑

準特選 火の山を蹴る逆上り鷹渡る 久永のり尾

徳田 正樹選

特選 一湾を見下ろす火山鷹渡る 谷口千枝子
準特選 夾竹桃今朝も火山は高く噴き 池田 貴之
準特選 行く秋の山は静かに噴きにけり 山下 啓子

中間 秀幸選

特選 火山噴いて空混濁の猛暑かな 五反田秋夫
準特選 わが顔に火山灰のざらつく晩夏かな 森 喜代子
準特選 大根蒔く熔岩の際まで畝を立て 山口 雄二

長柄 英男選

特選 噴く島に嫁して八十路や磯菜摘む 山口 雄二
準特選 銀漢や島に絶えたる力か呱呱の声 山口 雄二
準特選 火の島や湾に夫婦の鹿尾菜舟 吉村 久佐

濱田 彰典選

特選 火の島の鼓動にはじけ椿の実 上野ミチ子
準特選 大夕立鳴動の島洗ひ去る 藤元 睦子
準特選 大根蒔く熔岩の際まで畝を立て 中間 恵子

淵脇 護選

特選 埋没の鳥居動けず鷹渡る 藺 孝湖
準特選 蘇る百歳の熔岩新松子 久永のり尾
準特選 火の島の鼓動にはじけ椿の実 上野ミチ子

寶來 喜代子選

特選 ふるさとは火山灰降る町や島みかん 千草 好江
準特選 大根蒔く熔岩の際まで畝を立て 中間 恵子
準特選 海中の熔岩を見てゐる根釣翁 山之内赫子

山之内 赫子選

特選 風死すや深く刻みし噴火の碑 藤元 睦子
準特選 海女の背に灯の島昏るる流灯会 山口 雄二
準特選 大根蒔く熔岩の際まで畝を立て 中間 恵子

和田 洋文選

特選 秋冷や鍬一本の火山灰畑 上別府和代
準特選 火の島の鼓動にはじけ椿の実 上野ミチ子
準特選 秋日濃し火山灰に火山灰積む桜島 吉村 久佐

鹿児島県支部桜島俳句大会（当日句）成績

レインボー桜島賞（最優秀賞）

鴟猛る島に数多の避難港

浜田 彰典

優秀賞

一位 噴火碑に風の私語あり椿の実

寶來喜代子

二位 火山灰払ふ句帳に秋思たたみけり

菊地 優子

三位 きちきちの飛んで広げし熔岩の天

淵脇 護

四位 秋気澄む渚にかわく藻の匂ひ

藤元 睦子

五位 火の島を丸ごと背負ひ大根蒔く

谷口千枝子

六位 磊々たる熔岩の尖りや鴟猛る

五反田秋夫

六位 飛び上がり飛びつき郁子の蔓を引く

桂 豊子

八位 火の島へ吾も旅人小鳥来る

福沢 霧子

九位 火山灰に生き火山灰に生かされ大根蒔く

徳田 正樹

十位 神殿の火山灰掃く祢宜や初紅葉

中間 恵子

大川畑 光詳特選

磊々たる熔岩の尖りや鴟猛る

五反田秋夫

折田 幸弘特選

飛び上がり飛びつき郁子の蔓を引く

桂 豊子

徳田 正樹特選

火の島を丸ごと背負ひ大根蒔く

谷口千枝子

中間 秀幸特選

神殿の火山灰掃く祢宜や初紅葉

中間 恵子

長柄 英男特選

火の島や空家に太る椿の実

藤元 睦子

濱田 彰典特選

石鳥居火山灰に埋りし百の秋

久永のり尾

淵脇 護特選

火の島を丸ごと背負ひ大根蒔く

谷口千枝子

寶來 喜代子特選

火山灰に生き火山灰に生かされ大根蒔く

徳田 正樹

山之内 赫子特選

鴟猛る島に数多の避難港

浜田 彰典

和田 洋文特選

火山灰払ふ句帳に秋思たたみけり

菊地 優子